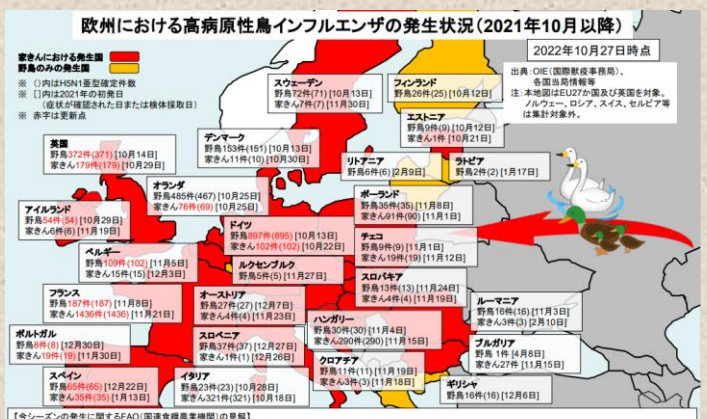
国内の養鶏場で鳥インフルエンザが続発しています

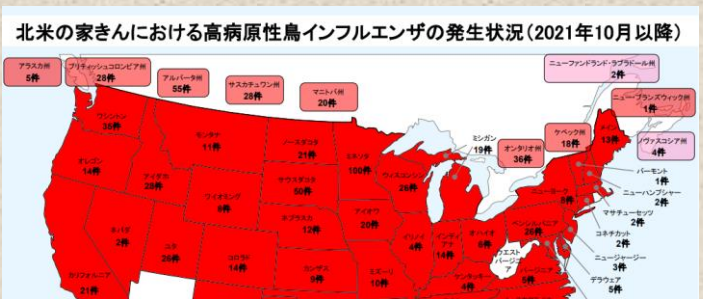
防疫作業の基本を皆でチェックしよう https://jaccnet.zennoh.or.jp/action/

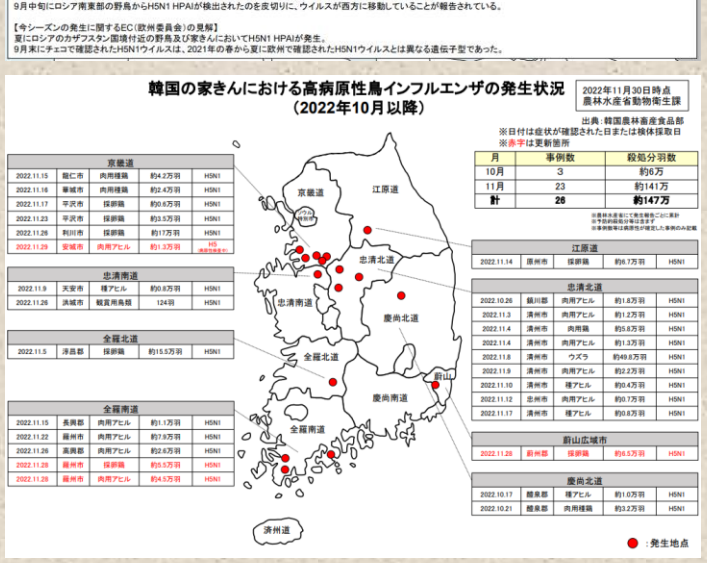
国内では10月末から20を超える農場で発生しています
採卵鶏は274万羽、肉用鶏は72万羽の殺処分となっています（12/1）

野鳥は9月末からすでに73例が検出され、検査中も10例以上あります
カモ、ハクチョウ類のほか、ワシやタカ、カラスでも昨年同様続発しています
渡り鳥の数が特に多いわけではないので、感染の割合が高いとみられます
ワシやタカ、カラスは、自然界で食べた獲物からウイルスに感染します
自然の野山に広くウイルスが広がっていることがわかります
農場周辺の湖の野鳥の飛来状況を環境省のWEBページで確認しましょう
https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/migratory/ap_wr_transit/

海外でも過去にない規模の流行が続いています
ヨーロッパは西部を中心に、ロシア方面からの渡り鳥によって発生が続いています
アメリカ合衆国では今年の感染羽数が5000万羽を上回り過去最多になっています
カナダや中米、南米でも発生が増えています







韓国でも10月から発生しています
140万羽を超える家きんを殺処分しました

今年は世界中でAIが流行しています
日本での流行もその一部です
渡り鳥が多くのウイルスを運んでおり
国内の野生動物がそれを広めています

ひとりひとりが動画で防疫を学びましょう
https://jaccnet.zennoh.or.jp/disease/ai/

全農畜産生産部

病原体を入れない

1. 人、車両は立ち入りを規制する
2. 農場内に入れる時は必ず消毒する
3. 農場の入場記録をとる
4. 立ち入り禁止の看板を設置する
5. 畜舎の周囲に防鳥ネットを張る
6. 飲水は飲用に適したものにする
   川水などを使う場合は必ず消毒する

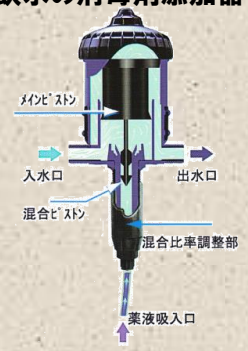
病原体を増やさない

1. 過密をさけ、適切な密度で飼育する
2. 暑すぎ、寒すぎ、換気不足、すきま風
   これらを避けた良い環境で飼育する
3. 畜舎を定期的に掃除する

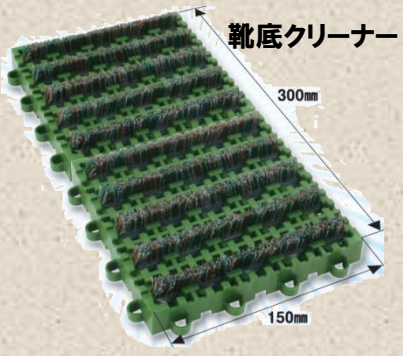
病原体を広げない

1. 畜舎毎に専用の長靴を設置・使用
2. 畜舎毎に踏込消毒槽を設置・使用
3. 毎日、鶏の健康観察と記録をおこなう
4. 畜舎が空になったら必ず清掃・消毒
5. ネズミやハエを定期的に駆除する

飲水の消毒剤添加器



靴底クリーナー



鳥インフルエンザウイルスに効く消毒剤

種　類	商品名	希釈倍数
塩素剤	ビルコンS クレンテ スミクロール	500倍～2000倍 300倍～3000倍 100倍～1000倍
ヨウ素剤	クリンナップA ファインホール バイオシッド30 ポリアップ16	200倍～800倍 200倍～800倍 500倍～1000倍 2000倍～5000倍
アルデヒド	グルタクリーン エクスカット	200倍～1000倍 200倍～1000倍

種　類	商品名	希釈倍数
逆性石けん 冬は石灰等でアルカリ性にするとよい	ロンテクト パコマ クリアキル100 アストップ	500倍～2000倍 500倍～2000倍 500倍～2000倍 500倍～2000倍
オルソ剤	オーチストン ゼクトン タナベゾール	100倍～300倍 100倍～300倍 100倍～200倍

消毒剤以外にも、過酢酸系除菌剤（ビネパワー）の
600倍希釈液を踏込消毒槽に使うことも推奨します

希釈倍率	以下の量の消毒液を作るのに必要な原液			以下の量の原液で作れる消毒液の量		
	18リットル	100リットル	500リットル	100cc	250cc	500cc
100倍	180cc	1リットル	5リットル	10リットル	25リットル	50リットル
300倍	60cc	333cc	1．7リットル	30リットル	75リットル	150リットル
500倍	36cc	200cc	1リットル	50リットル	125リットル	250リットル
1000倍	18cc	100cc	500cc	100リットル	250リットル	500リットル
3000倍	6cc	33cc	166cc	300リットル	750リットル	1500リットル
5000倍	4cc	20cc	100cc	500リットル	1250リットル	2500リットル

消毒剤の消毒効果を高める資材（科学飼料研究所 取り扱い）

石灰の効果を確かめる薬「リトアクア」
石灰は古くなると効果がなくなります
液を1滴→すぐ青くなったら効果OK

逆性石けんに加える水酸化カルシウム
逆性石けんは寒いと効果が落ちるので
液をアルカリ性にして効果を高めます

全農畜産生産部